



認定特定非営利活動法人

青少年の自立を支える会 通信

Spring

平成22年

2010年 4月

会報 第50号



「だいじ家」開所式の一コマ

## 目次

- 巻頭 新たな段階へ
- サロン「だいじ家」開所式と講演の報告
- 春夏秋冬「星の家」 NO.14
- 事務局報告
- コンサート報告ほか



記念すべき会報発刊50回目を迎えた平成22年度は、本会活動の新たな段階へのステップアップの年度となりました。巻頭では理事長の福田雅章がそのステップアップの具体的な取り組みへの抱負を述べます。

## 新たな段階へ

理事長 福田 雅章

昨年度は、本会にとって大きな変化の年でした。星の家の移転に始まり、この1月には社会的養護の当事者のためのサロン「だいじ家」を開設することができました。これも多くの会員そして支援して下さる方々のお陰と感謝しています。

念願の自前の不動産を手に入れ、星の家が移転したことで、入居の定員を6名から8名に拡大することができました。不況下、就労できない青少年が増加している中であって、2名の増員とはいえ社会的要請に応えることができたのではないかと思います。

一方、サロン「だいじ家」の開設によって、「援助のための拠点づくり」、「施設退所者等のための居場所づくり」、「社会的養護の当事者の声の集約」等、課題となっていた事項が解決にむけて一步を踏み出したといえるでしょう。この事業は「地域生活・自立支援事業」という国のモデル事業となっていました。県の財政事情もあって未だ認可を受けておらず、運営のための費用はすべて自己資金で賄っているのが現状です。「地域生活・自立支援事業」は今年度より「退所児童等アフターケア事業」として組み換えられ一般事業として実施されることとなりました。厳しい財政状況の下、行政は必要性を認めているながらも新規の事業は認めないといわれていますが、非常に重要でかつ必要性の高い事業ですので、何と

しても予算の獲得をしたいと思っています。

いずれにしても、星の家の移転、サロン「だいじ家」の開設を契機として、本会は新しい段階に入りました。とはいっても、「目の前で苦しんでいる子どもに必要な支援を届ける」という設立趣旨を踏まえれば、どのような場合であっても「必要なことをしていく」ことを忘れてはならないと思っています。

さて、本年は「児童虐待防止法」が制定されて10年の節目の年です。10年を経て、確かに児童虐待に対する社会的関心は高まりましたが、虐待は増加の一途をたどり虐待による痛ましい死亡事件の報道を毎日のように耳にします。本会が支援の対象としている者の大多数は虐待の被害者であることを踏まえれば、児童虐待について改めて社会に注意を喚起することも我々の重要な役割であると思ひますし、このことについて中心的な役割を担っていかねなければならないと考えています。

自前の建物を購入に際し多額の借金を抱えましたが、借入金返済キャンペーンではたくさんのご支援が寄せられました。この場を借りてお礼申し上げます。できるだけ早く返済していくために、キャンペーンは継続していこうと思ひますので、今後ともご支援をお願い申し上げます。

## 社会的養護の当事者自助グループサロン「だいじ家」開所式と講演の報告

平成 21 年度の事業計画で「援助のための拠点づくり」「施設退所者等のための居場所づくり」の対策として、地域生活・自立支援事業を新規に取り組むことになったが、この度準備期間を経て東京にある「日向ぼっこ」をモデルとした社会的養護の当事者自助グループサロン「だいじ家」を立ち上げる運びとなりました。この開設に当たり開所式と記念講演を平成 22 年 1 月 16 日土曜日の午後 1 時 30 分から、とちぎ青少年センター第一研修室にて開催しましたので報告します。

なお、準備のほか開所式の開会・閉会の宣言や司会進行を社会的養護の当事者が、テキパキと務めている姿が印象的でした。



開会宣言

### 福田理事長挨拶

理事長自身の児童養護施設で過ごした生い立ちから始まり、施設の子であるがゆえに成績が悪い子として扱われる学校での差別。社会に出ても施設で過ごしたことで差別されるような気がして過去を言えない孤独さ、辛さ等々。



理事長挨拶

このような境遇にある施設退所者等の居場所としてのサロンの役割は二つ、

- ・一人ぼっちにしないように施設退所者の関わりを持つ所

- ・社会的養護者の気持ちを代弁する発信基地の役割を担う所

として、このサロンを皆さんに“だいじ”に育ててほしいと述べられた。

### 来賓者の祝辞

栃木県中央児童相談所の新井重信所長からご祝辞を頂きました。

親がいない、親の虐待を受けて親元から離れやむを



中央児童相談所長ご祝辞

得なく児童養護施設で暮らす子どもたちは、施設を退所した後の支援制度が不十分であり、このハードルを越えていかねばならないのが実情である。この当事者同士が集い悩みを語り合ったり、同じ時間をつぶしたり出来る、そして相談を持てる場がサロン「だいじ家」である。サロン「だいじ家」の活動が子どもたちの幸せにつながるよう、支援の輪が広がることを願っていますと述べられた。

### 寄付金贈呈式

帝人労働組合より寄付金 268 千円を頂きました。そのお礼に福田理事長から感謝状を帝人労働組合の代表者に手渡しました。



寄付金の贈呈

曾根事務局長によるサロン「だいじ家」開設までの経緯の説明

昨年 8 月に県内の社会的養護者である児童養護施設出身者の有志 5 名が集まり進め方を相談、その後東京にある「日向ぼっこ」を見学、会合を重ねながら施設出身者中心で準備を進めて来て、今日に至りました。

さて、「だいじ家」の意味は、栃木の方言で相手を思いやる言葉の“だいじ”“だいじけ”！？から取ったものです。

そしてサロンの役割目的は、

- ・施設出身者は、社会に出てから会社などで、親や親戚の話になると会話に入っていけない肩身が狭い思いをしているのが実情で、同じ悩みを持つもの同士が集い語り合える場としたい。



曾根事務局長

- ・相談援助事業として、電話相談やサロンで相談に応じる場としたい。
- ・星さん一人では手に負えなくなってきた延べで

100 名を超えた「星の家」利用者のフォロー。

- ・当事者が集まり当事者の気持ち、問題提起の代弁者の機能を持つところ。また、先輩当事者のメッセージを後輩に送ること等々の場としたい。

最後に皆様と共に多くの方にメッセージを発信

してサロンを育てて行きたいと開所式を締めくくられた。

## 記念講演

テーマ 「当事者の立場で思うこと」  
講師 鈴木嵩宏氏（児童養護施設出身）

講演に先立ち自立援助ホーム「星の家」の星俊彦ホーム長から講師の鈴木氏の経歴等について紹介があった。



講師紹介の一コマ

星さんが約20年前に某児童養護施設に勤務したとき、その施設にいたのが中学生の鈴木さんだった。鈴木

さんは高校卒業後、国家公務員として税務署に就職。その後、勤めながら夜間大学を出て、現在は東京国税局に勤務していると話された。

### 【講演要旨】

生い立ちから話され始めた。後に知ったが幼少時に両親が離婚、母親が精神的な病のため児童養護施設に預けられた。父は再婚したが既に亡くなっていた。施設では先輩に絶対服従、物心がついた頃感じ取った。先輩に連れられて夜中3時ごろ近くのミスタードーナツのお店に食べに行きお店の人に怪しまれたり、畑の梨を取って食べたりした等・・・

中学時代は、勉強はしなかったが国語は好きだった。公立高校の進学は無理とあきらめていたが、中学3年のとき生徒会長選があり、先生に勧められて立候補、会長になった。このことが幸いし宇都宮商業高校への推薦入学の恩恵に預かった。

高校に入ってから友人を作らなくてはい、隣の子が簿記の補習授業を受けていたことから一緒に学び、1年生のとき簿記3級を、2年生のとき簿記2級を取得した。3年生のときに簿記の先生が、簿記の大学校があると紹介された。アルバイトもしたが、先生が人生の勉強になるからと勧められたから良かった。この頃はバブル初期の時代で、成績が中くらいでも就職先は引手あまた。国家公務員試験を受けて採用、ラッキーと思った。この時が消費税導入の平成元年で税務職員となったのだ。

全寮制で青梅税務署に配属。同期3人が大学を受験しようということに。理由は単純で都内に住めるし給料もアップとの思いで勉強したが、受験したのは自分だけで駒沢大に合格し、通学の便が良い渋谷勤務に。大学卒業後給料アップを期待したが上がらず。昇進試験制度があることを知り挑戦、10年間挑戦できる仕組みで9年目にしようやく合格。税務大学校でさらに勉学に励み、現在先ほど紹介された職場に勤務している。

このように過去を振り返って見ると、運が良かったと思うし、自分の希望が叶っていた。また、施設出身であることを言う必要がない職場であった。しかも偶然にも後輩に施設出身者がいたのにはびっくりした。

さて、生活指導の先生に自分が犯人でないのに施設の子であるために犯人扱いされ、悪のレッテルを貼られた。自分が犯人でなかったのに先生は謝らなかった。また、同級生からは保護者の名前に施設長の名が書かれていて尋ねられて困惑、さらにはどこに住んでいるの、お父さんはと尋ねられたりした嫌な思いを経験した。

高校時代には星さんがいて、独身時代の星さんの自宅に、施設出身者が居候していたのを知り不思議に思った。星さん

に尋ねたところ、住むところがないから面倒を見ていると言われたことを覚えている。

施設を出た後、時々施設を訪れたが今はなくなってしまい、戻る場所が無いのが残念。皆が集まれる場所があると近況が聞けるので嬉しいと思うので、サロン「だいじ家」が必要、是非公的資金の援助をと説かれて話しを結ばれた。

### 【質疑応答の要旨】

星さんから

良く一人で生き延びてきこられたと感心、何故との問いに

施設の保母さんの躰が良かったから。優しく、よく褒められ嬉しかった、反面時には厳しい面もあった。

また、手本となる施設の先輩や先生に恵まれた。



鈴木講師

今その先輩は会社を経営している。

当時施設の事務局を勤めていた方から

あの頃は優秀な子が多く、後輩に手本を示して生きたいと言って巣立っていったことが強く印象に残っている。

児童相談所の方から

ハンデをもって頑張るエネルギーの起爆剤は何かの問いに。

私の場合には動議付け。やる気を出させる環境があったからで、それは目指したい良き先輩であったり、先生であったりしたが、人それぞれなので難しいと思う。大切なことは、その子を理解してあげてサポートすることだと思う。

当時の保母さんから

今話を聞いていて、子どもたちのおかれている立場を理解せずに何もわかっていなかったと、当時のことを反省し申し訳なかったと言われた。鈴木さんは苦労したことは言わないけれど、一人でずいぶん苦労してきたことが想像できると。もの言えない子どものためにこれからも関わって代わってものを言ってあげたいと話された。

以前保母さんをしていた方から

帰る居場所が無い子どもが我が家を尋ねて来て発した叫びが“行き場が無いのが嫌！”。この子どもたちから、色々なことを聞きくが、サロン「だいじ家」の必要性を痛感している。

親からの支えが得られずに一人で頑張って生きてきたという女性の方から

子ども時代のことトラウマになって、現在母親の世話をしていることが割り切れずに葛藤の毎日。鈴木さんの前向きに生きる大きな力は何かとの問いに。



質疑応答の一コマ

母親は精神的な病で入院中だが一緒に住む気はない。ただ母の姉に相談しているので、心の負担は軽くなっている。

動議付けとして言えるのは、施設生活では良き先

輩との出会い、就職してからは良き仲間との出会いで大学を目指したことなど。

最後に星ホーム長から

鈴木さんは前向きな生き方をしていると思う。前に行きたいが行けない人がいる。その人には前に進めるよう引き止めている糸を切る手助けが必要である。そしていざと言う時に帰るところが必要である。

私は誰かと手を結ぶことでパワーが湧いてくる。その時この輪が広がって行くと良いなー！！と思うと締めくくられた。

最後に当事者の代表が、閉会宣言を行い閉会した。



閉会宣言

【開所式と講演を終えて】

開所式が終わった後、サロン「だいじ家」にNHKが取材に訪れ、6時台から始まるNHK総合の首都圏ネットワークで、その日に放映されました。

最後に、鈴木さんの人生観を思わせる詩、相田みつをの日めくりカレンダー「ひとりしずか」の最初のページ「そのときの出逢いが」を紹介します。

出逢い

そして感動

人間を動かし

人間を変えてゆくものは

むずかしい理論や

理屈じゃないんだなあ

感動が

人間を動かし

出逢いが

人間を

変えてゆくんだなあ・・・

先日開催されたコンサートは、「星の家」の元入居者が出演！その経緯などを報告します。

今回は第一部のゲストにボーカル&ギターのアキライさんとピアノの渡辺真理さんをお迎えしました。アキライさんは、「星の家」の子どもたちと同じ合える心の持ち主で、心に傷をもった子どもたちの心の琴線に触れるような歌などを作詞作曲して、全国をライブ行客している方です。

「星の家」に強い関心をお持ちで、是非お役に立ちたいと出演を喜んで承諾していただきました。昨年末には「星の家」を来訪、その時ノートに詩を書き溜めている元入居者がいることを話したら関心を持ってくださり、その詩をご自身の子ども時代の境遇をもとに作った「愛を知らない子どもたち」の曲の前後に朗読してほしいということになりました。そこで作詩者の元入居者に話したところ、あっさり



リハーサルの一コマ

とOKの返事でしたが、ステージでの朗読は“いや”ということに、仕方なく事前にテープにとり本番で流すことにしました。

そしてコンサート当日。リハーサルでためしにと言うことで元入居者が朗読したところ、アキライさんを始め周囲にいた人たちが、その語り口に心を動かされ・・・是非とも本番で語ってほしいということに。本人は嫌がりましたが、傍にいる友人が肩を押し、友人と美帆さんが寄り添うということで実現しました。

そして本番、渡辺真理さんのピアノをバックに前奏と後奏で読み上げましたが、その詩と語り口は会場からはすすり泣く声



本番の一コマ

が聞こえる程、胸に響く詩でした。終わってからの温かい拍手が印象に残りました。

コンサートで披露した元入居者の「詩」を紹介

#### 【前奏】

ねえ 空はこんなにも 広いのに  
人の心は どうしてこんなにも 狭いのかな  
生きるほどに 汚れていく  
だって この世界が 汚れているから  
生きるということが こんなにも しんどくて  
つらくて 悲しくて 苦しいものだとは  
想像もしなかった

今だけが苦しいのか それとも  
これから先も苦しいのか

失敗だらけの人生  
後悔だらけの人生  
そんな人生にも 光はあるんだよね  
いまは 耐えよう  
きっと あしたは 晴れるよね  
そう思うくらい いいよね



#### 【後奏】

誰もが 不安を抱えていることを 知ったよ  
自分だけじゃないってことも 知った  
誰もが 必死で 何かを守るため  
また  
何かに耐えながら 日々を送っているんだね

傷つくことのない 平和な世界  
そんな世界は 本当に あるのかな  
探すより 創ってしまったほうが いいかな

ねえ 共に生きよう  
あした 道がなくなる前に  
今日を 歩いていこう

とりあえず 笑おう

今日は 晴れていますか？

ところで、2000人収容のホールで大勢のお客様を前に、ステージ上で詩を読む彼女の姿とこの詩を聞きながら、2年前のことを思い出しました。星の家で毎日「生きている意味がない」と言っていた事。病院で処方される薬を大量に飲み、何度も病院に運ばれた事。一緒に救急車に乗った事。そんなことが続いて、大量服薬をやめられなくなっていた彼女に、「星の家だけがずっと彼女を支えていけるんだろうか」とまで思っていたのに。今では一緒にいてくれる友人がいるのです。ステージ上でも彼女の傍に



ていてくれました。薬を飲んでしまわないかと心配してくれる人が傍にいて、彼女は薬を飲まなくなりました。

今の2人の関係がこれからもずっと続くかどうかは誰にも分からないから、もうこれで安心！ということはありません。でも、「人生にも光はきっとある」とまで言えるようになった。そんな出会いが彼女にあっただけでもすごいと思うのです。

### 【星の家の近況】

現在の「星の家」には、男2人、女5人の計7名の入居者がいます。このうちの2人は再入居で帰ってきた子です。

1人は、昨年12月に職場の寮に出ました。しかし職場でのトラブルがあったり、立ち上げたばかりの会社の為に十分なお給料がでなかったりと、本人が思い描いていたのとは違う生活だったようで、仕事を辞めて星の家に戻ってくることになりました。



帰ってきた日に「痩せたね」と言うと、「だってアパートで辛かったんですよ。ご飯を2日食べられないこともざらで。」と答えました。格好つけずに、「辛かった」と言えるのが彼の強みで、こちら素直に「そうか、じゃ星の家でご飯いっぱい食

べなよ」と言えます。

今回、星の家に戻りたいとSOSを出せたことは、彼が変わったと感じることでした。簡単なこと

うですが、自分で考えてさらに人にお願いするということは、以前の彼からしたらものすごい進歩なんだと思います。

もう1人は3年前に星の家を出た子です。その後も様々なところを転々としていましたが、もう何年も経っていたし、仕事もできる（続かないが・・・）子なので、戻ってくるとは思いませんでした。

しかし星の家を出てからの話を聞けば、相変わらず安定した生活ではなかったことがうかがえます。人との関係が切れれば住むところを失い、もうすぐ20歳でもケータイさえ持っていません。お金を稼ぐことはできるから、もっといい暮らしができそうなのに。と思うのはこちらの考えで、本人はそれなりに楽しい時期もあったようで・・・お金を貯めてアパートに自立するんだ！なんてセリフはどうも聞けそうにもありませんが、今は彼女が星の家に帰りたいたいと思ってくれたことが嬉しいのです。

昨夜ご飯の時に、星さん美帆さんと彼女がいた頃の話になりました。よ～く思い出してみると、当時は彼女にむっとすることが多く、無断外出で帰ってこない、さらには給料が入ると帰ってこない、なんて事もありました。



でもそのむっとした事を私達が忘れていないという、引きずっていないのです。「いちいち覚えていたらむかつくことばかりだよ～」などと話しながら、でもそのおかげ？で、今またこうして彼女と笑い合っているし、こちらもカリカリむっとしないで余裕を持っていられるのだなと思います。星さんが「大人側もまだ成長しているんだ」と言っていました。

そう考えると人と人が関わるのには、本当に沢山の時間が必要なんだと感じます。今彼女と笑っているのは、お互いに変わっていて（良く言うと成長、変化？）ある程度の時間をおいているからだと思うのです。

そうして、カワイイなと思ったり、時には憎たらしく見えたりしながら、これからも付き合っていくんだろうな・・・と思うのです。

(YY)

## 第 13 回コンサート開催報告

第 13 回目を迎えたコンサートは、3 月 13 日土曜日の夕刻、宇都宮市文化会館大ホールで開催しました。チケットによるご来場者は 1,377 名、昨年には若干及びみませんでした。大勢のお客様をお迎えすることが出来ました。お蔭様で前回とほぼ同じ 153 万円もの収益を上げることが出来ました。

さて、今回は第一部にボーカル&ギターのアキラさんとピアノの渡辺真理さんをお迎えしました。AKIRAさん自作の歌「だいじょうぶマイフレンド」「レラ」「愛を知らない子どもたち」「家族」「HAPPY BIRTHDAY」「ありがとう」の曲を披露。二曲目の「レナ」はスタッフの星美帆さんをステージに呼んで、「星の家の母」としての賛辞とねぎらいを語りかけるように歌い上げました。続いて



星美帆さんを迎えて

の「愛を知らない子どもたち」では、春夏秋冬星の家で前述したように元星の家の入居者が作詩した詩を披露・・・、全 6 曲を熱唱し拍手に包まれながら第一部の幕が下りました。

休憩をはさみ星ホーム長による「星の家」の紹介の後の第二部は、倉沢大樹さんのエレクトーンと島田絵里さんのフルートによる「ジブリメドレー」で幕が上がり「スクリーンメドレー」「デスペラード」「リベルタンゴ」と 4 曲を熱演。続いて浅香薫子さんが加わり「窓」

「赤い月」  
「Forget me not」  
「カササギ」のさだまさし作詞あるいは作詞作曲の 4 曲を熱唱、ご来場



第二部の一こま

者の拍手喝采を浴びました。

花束贈呈後のアンコールでは子どもたちが待ちに

待った「アンパンマンのマーチ」。今年は例年のない大勢のお子様ステージに上がり出演者全員とともに大合唱、大いに盛り上がりました。そして最後の締めくくりは、「サラバンド」、浅香薫子さんの熱唱に会場は感動の渦に。



アンパンマンのマーチ

お見送りでは大勢のご来場者から、良かった！感動した！との言葉を受け大成功に終わることが出来ました。

これも倉沢大樹さんを初めとした出演者の皆様そしてこのコンサートを支えていただいた大勢のボランティアやチケット販売などにご協力いただいた皆様のお陰で、ここに深く感謝しお礼申し上げます。

## 連 合に感謝状を贈呈

本年 1 月 27 日水曜日の午後、福田理事長が連合栃木を訪れ、3 年間連続しての「愛のカンパ」のご寄付や星の家まつりなど本会活動に多大なご支援を頂いたお礼として、連合栃木の加藤事務局長に感謝の意を表す感謝状を贈呈いたしました。連合の組合員の皆様に対しまして、改めて御礼申し上げます。

なお、「愛のカンパ」のご寄付は、平成 21 年度 80 万円、平成 20 年度 50 万円、平成 19 年度 45 万円で総額は 175 万円でした。

## 理 事会開催報告

去る 3 月 30 日火曜日の夕、自立援助ホーム「星の家」において理事会を開催しました。議題は、平成 21 年度補正予算、平成 22 年度の事業計画と予算案などが審議され承認されました。

また、平成 21 年度から始まった星の家建物購入借入金返済キャンペーンでは、500 万円を超える寄付金が集まりましたので、この前年度分の寄付金は借入金の繰上げ返済に充てることが承認されました。

寄

## 付・会費納入者

敬称略・順位不同

平成22年1月～22年3月まで

(個人情報保護の観点から、ウェブ版では個人名は割愛させていただきます)

### 【編集後記】

年度末行事のコンサートの盛況に終わり、心待ちにしていた宇都宮の桜も4月2日ようやく開花宣言が出されました。春本番が訪れ、コンサート疲れも吹き飛び(^ ^)～。ここ数年間は3月下旬に開花していたので遅れ気味?と思ったのだが、それでも平年よりも1日早かったようだ。地球温暖化の影響がじわりと忍び寄ってきていますね。



ところで今年のコンサートでは星の家の元入居者が詩を披露しましたが、今までの日々の苦悩・思いをノートにしたための詩の一つです。この元入居者が子ども時代に受けた心の深い傷は、癒えることが一生ないかもしれませんが、この詩を自分以外の人に言葉にして呼びかけられるようになった心の変化が、会場の人たちに伝わり共感を呼びました。

それは親代わりにいつも身近にあって、辛抱強くしかも温かく見守ってきた星さんたちの努力があったからで、ゆっくりだが自立に向けた一歩を踏み出したのだと思うのです。

子どもたちにとっての「星の家」、その存在は計り知れなく大きくなっていると感じました。

## お知らせコーナー

### 研修会開催のご案内

(平成22年度定期総会)

日時 平成22年5月22日 土曜日  
研修会 14時30分～16時頃  
(定期総会 13時15分～)  
場所 青少年センター(アミークス)  
2階 第一・二研修室  
テーマ 星の家の現状(仮称)  
参加料 無料  
お申し込み 「星の家」までご連絡ください。

なお、研修会に先立ち開催する平成22年度定期総会のご案内は、正会員の方に別途ご連絡いたします。

なお、沢山の方からお米や野菜あるいは日用品などの物品をいただいております。ご芳名は省略させていただきますが感謝しお礼申し上げます。

ありがとうございました!

ご不明な点がございましたら当会までお問い合わせください。

### 【会費納入及びご寄付の郵便振替先について】

加入者名：青少年の自立を支える会 口座番号：00140-3-366972

\*通信欄に会員種別(正会員、賛助A、賛助B)、寄付金及びその金額をご記入ください。また、ご入会の方は“入会”とご記入ください。

\*\*\*「会費等の金融機関引落し」のご利用をお勧めしております!\*\*\*

発行者/ 認定特定非営利活動法人 青少年の自立を支える会  
発行日/ 2010年4月20日  
発行責任者/ 福田雅章  
編集責任者/ 曾根俊彦

所在地/320-0037 栃木県宇都宮市清住1-3-48  
電話/ 028-666-6023 FAX/ 028-666-6024  
Eメール/ sasaeru@snow.ucatv.ne.jp  
HP/ <http://www2.ucatv.ne.jp/~sasaeru.snow/>